

【オリコンサルグローバルJVがコンサル フィリピン南北通勤鉄道延伸事業が着工】

フィリピン南北通勤 鉄道延伸事業が着工

オリコンサルグロー
バルがコンサル

オリエンタルコンサルタ
ンツグローバルら5者JV
が、コンサルタント業務を

担っているフィリピンの「南北通勤鉄道延伸事業」が着工した。マニラ首都圏などを経て、クラーク国際空港（マバラカット市）を結ぶ既設路線から約5・8^{キロ}南に延伸。オリコンサルグローバルは入札支援や

施工監理業務を通じ、慢性的な交通渋滞の解消に貢献する。延伸事業は2028年の完了を目指す。

南北通勤鉄道は北方に位置するマロス市と首都マニラのツツパンを結ぶ延長約53^{キロ}。マニラ首都圏や近郊エリアの交通利便性を高揚するため、既設路線からさらに南のカランバ市まで約5・6^{キロ}を延伸し全長約58・6^{キロ}の路線を敷く。

総事業費は約1兆3570億円を見込み、うち日本政府による円借款（限度額約1671億円）とアジア開発銀行（ADB）の借款を活用する。借款額は日本

政府とADBで最大規模となる。

事業内容は土木工事や鉄道システムの構築、車両調達など。入札支援や施工監理といったコンサル業務をオリコンサルグローバル・片平エンジニアリング・インターナショナル・パシフィックコンサルタンツ・トニーニチコンサルタント・日本工営が担当する。

9月18日には現地で起工式を開いた。運輸省からロペス首席補佐官やパタン次官に加え、越川和彦フィリピン日本国大使ら関係者が多数出席し、工事の無事完成を祈った。